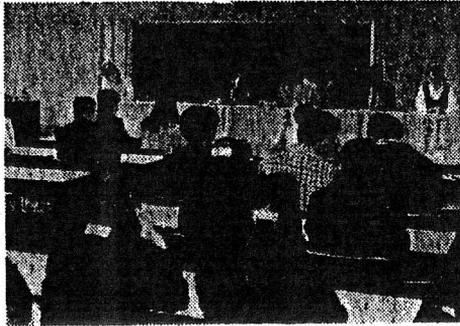


在り方問われる 日本の医療

県内在住外国人が不安や疑問

患者に説明しない医師 少ないホームドクター



日本の医療の在り方を見つめ直した外国人医療に関するパネルディスカッション

交 談 盛岡・岡 盛流

県内でも年々増える外国人の医療問題を考えるパネルディスカッションが四日、盛岡市中央公民館で開かれた。「インフォームド・コンセント（説明と同意）が足りない」「家庭医（ホームドクター）が少ない」など、日本の医療の在り方を問う多くの問題点が浮き彫りにされた。

ディスカッションは県国際交流協会などが開いた国際交流フェスティバルの中で初めて企画された。パネリストは医師のほか、医療を受けた経験を持つ県内在住の外国人ら、高校生や医療関係者も含め、約六十人が参加した。

報告した後、パネリストがそれぞれ意見を述べた。AMDA（アジア医師連絡協議会）国際医療情報センターの小林幸所長は診療経験を基に「保険の仕組み、どんな医療サービスを受けられるかの情報提供が少ない」と指摘。「外国人医療は特別なものではない。命にかかわる情報だけに地域の中に日本語がわからない人もいるといふ認識を持つことが重要」と語った。

医師は農村に集中、外国人花嫁のストレスを取り上げ「文化や心情を理解しよう」としない夫に「その問題がある」と強調。「農業への自信を回復し、まひした家庭の機能を取り戻すことが花嫁が楽しく暮らせる道につながる」と述べ、日本人の暮らしや心の在り方を問い直し「共存の思想を」と訴えた。

釜石市の海洋バイオテック・ロジック研究所で働くケンカテ・スワランさんはインド出身。「来日して病気が一番不安だったと語り、インドでは夜中でも診てくれる家庭医が日本に少ないこと、医薬品が準んでいないことへの疑問を挙げた。

アメリカ出身の坂本ロビンさんは盛岡市で英語を教える。医師に「外国人の体はわからない」と言われたショックが、「三時間待ちの三十秒診療」への怒りなどを率直に話した。また医師が患者に何も説明しないことへの疑問を強調。「日本人はなぜ医師まかせにして

山形大医学部の桑山紀彦

岩手の週間天気

5月	6火	7水	8木	9金	10土	11日
△▽5日	△▽6日	△▽7日	△▽8日	△▽9日	△▽10日	△▽11日
晴	曇	曇	曇	曇	曇	曇
雨	雨	雨	雨	雨	雨	雨
曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇
曇	曇	曇	曇	曇	曇	曇

(盛岡地方気象台発表・4日)

ホムドクターの問題では会場から「医療が専門化、細分化して難しい」との質問が出た。桑山医師は「不足しているのは医師と地域のコミュニケーション」。お祭りなどに積極的になることがホムドクターにつながる」と述べた。フェスティバルでは子供たちのゲームとクイズによる交流も繰り広げられた。